



国際ロータリー



266地区

インターアクトクラブ

1987

8月23日(日)~8月28日(金)

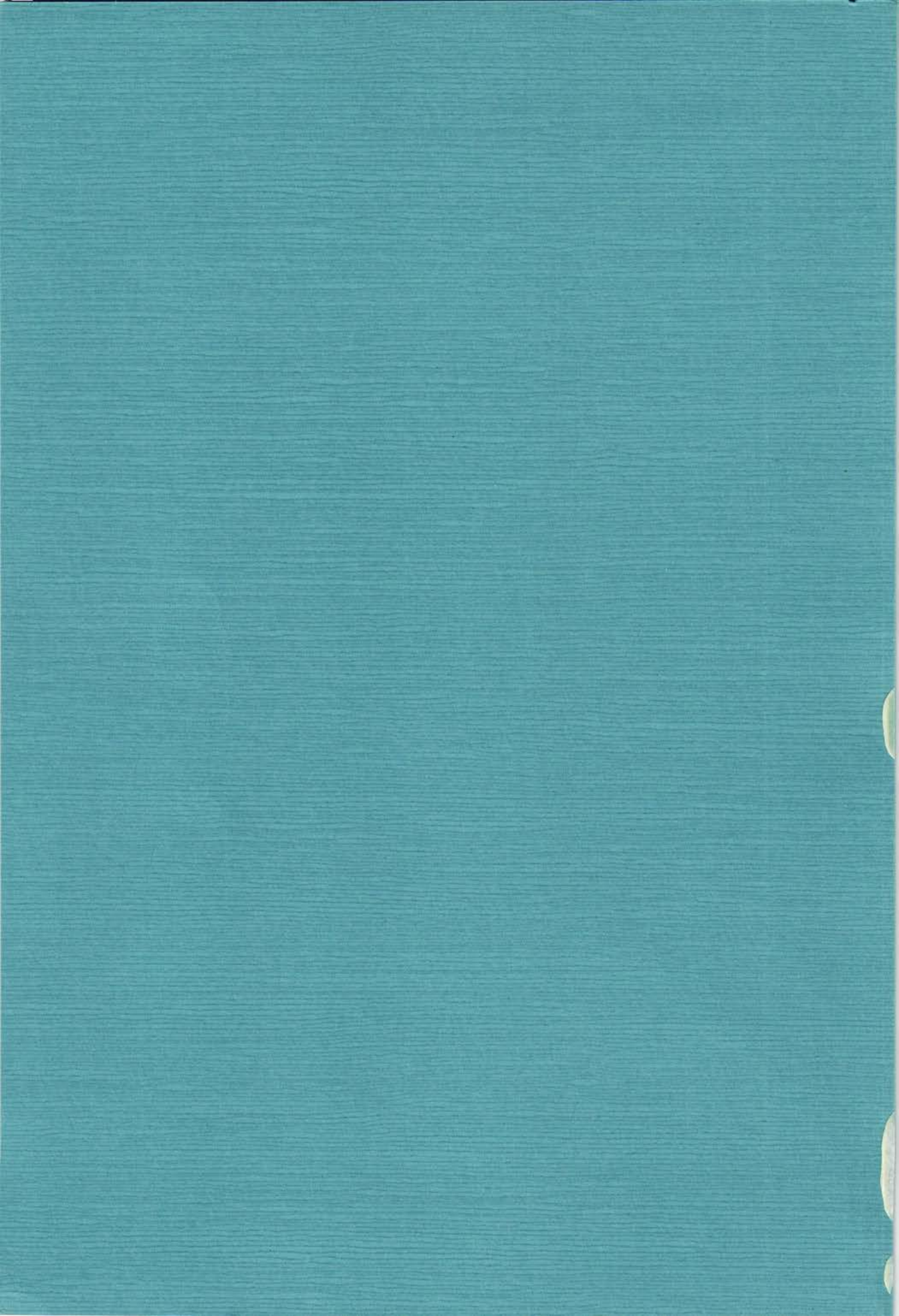
海外研修

ハワイの旅

報告書

ホストクラブ

清風学園I・A・C



海外研修

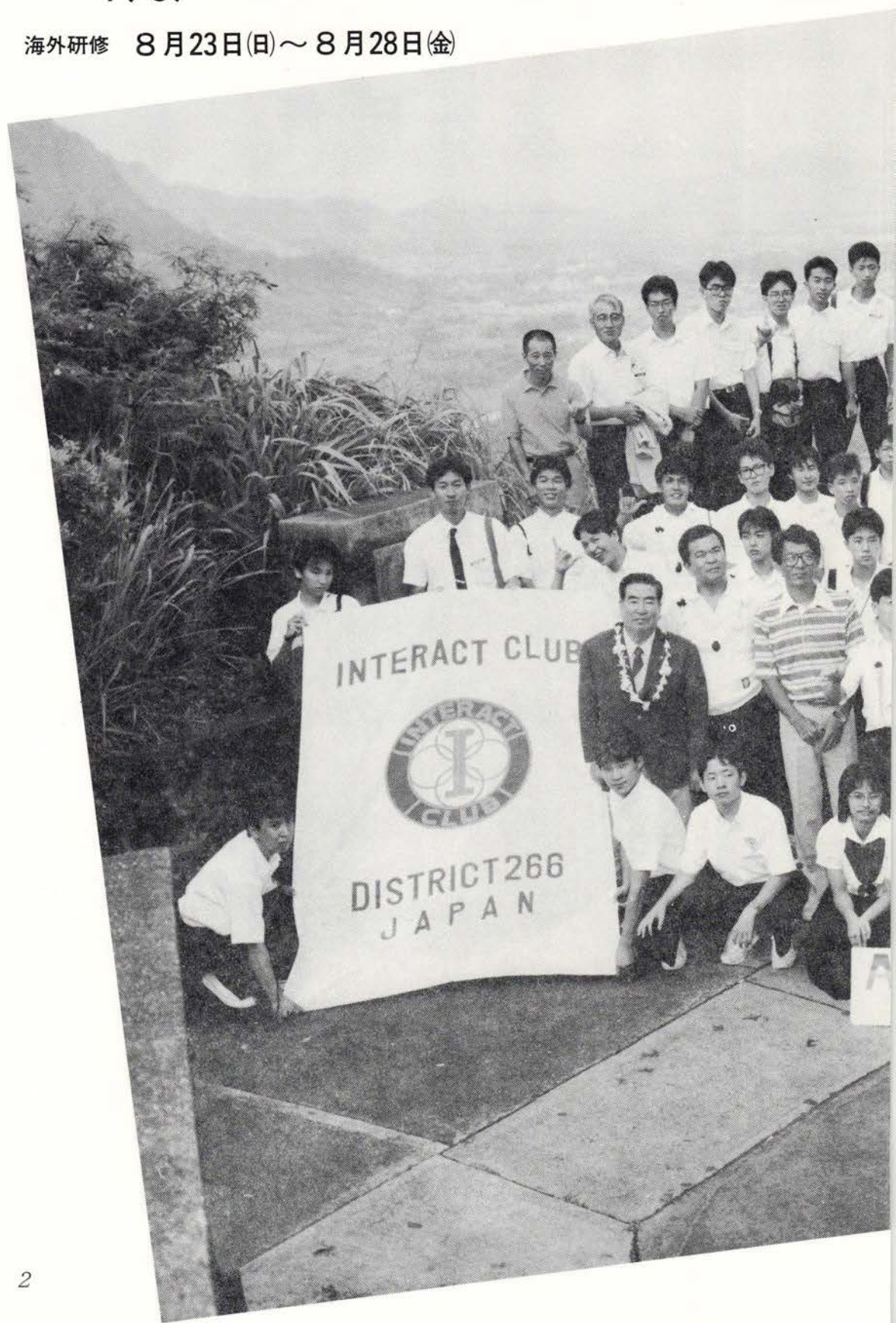
ハワイの旅



報告書

1987 国際ロータリー266地区 インターアクトクラブ

海外研修 8月23日(日)～8月28日(金)





目 次

巻頭の辞	第266地区ガバナー 松本良諄	8
海外研修を終えて	第266地区I・A・C委員長 二宮正彦	9
参加者集合写真		2
参加者名簿		6
ハワイ6日間の旅(日程表・宿泊ホテル)		7

参加者感想報告

● ホノルル空港にて

8月23日	一色勝利	12
第1日目	大谷朋史	12
此処は何処	香渡大介	13

● ホノルル市内観光

市内観光をふり返って	立岡小百合	13
市内観光	井本 聡	14
最初の第一歩	今川佳代子	14
ホストファミリーの出迎え	宮本郁子	15
Home Stay ～1日目～	大谷博子	15
8月23日のハワイ	名村真由美	15

● ホームステイでの思い出

ホームステイで	佐谷佳子	16
オーバーか自然か	宇都宮健司	16
短かったホームステイ	上辻俊輔	16
8月24日ホームステイ	田代清志	17
ホームステイ	竹村圭子	17
8月24日晴れ	斎藤吾朗	18
CHRISTY	利川陽子	18
ホームステイ中の観光	中西昌平	19
ハナウマビーチで	藤井恵子	19
ホームステイ最終日	古田禎浩	20
8月24日	西條彰修	20
開放的なアメリカの人々	山際由利子	21
ホームステイ	山口泰代	21
HOME STAY	篠塚由香子	22
ホームステイ	和泉匡余	22
2日目	祖川達也	22

ホームステイ 2 日目	大西由美	23
変な心配	松井美幸	23
驚き	大森浩	24
ホームステイを終えて	牧石千晶	24
● フェアウェルパーティー		
第 3 日目	霸原徹	25
Farewell Party	佐谷麻子	25
ホームステイを終えて	瀬田純子	26
フェアウェルパーティー	大賀拓也	26
Farewell Party	長浜智子	27
● ホテルでの反省報告会とポリネシア文化センター観光		
8 月 26 日	大坂顕義	28
5 日目輝くワイキキビーチ	目克哉	28
アラモアナショッピングセンターで	酒井貴子	29
感想文	梅川貴弘	29
ポリネシア文化センター	道下昌孝	30
ポリネシア文化センター	十小川公一	30
ポリネシア文化センターで	奥埜真紀子	31
ポリネシア文化センターへ行って	水谷佳代	31
ハワイの人々	東口尚代	31
もうすぐさよなら	小野登史子	32
ハワイの中の日本	木下葉子	32
● 海外研修をふり返って		
帰路	山口兼治	33
帰りの飛行機にて	青山政代	33
短かかった 4 日間	森本誠	33
Next visit を夢見て	松田孝之	34
ハワイの思い出を胸に日本へ	田淵義浩	34
6 日目	上野雅弘	35
ハワイを後にして	藤本清子	35
出会い	西野陽子	35
貴重なお土産	佐藤久子	36
4 日間を振り返って	福田琢也	36
○		
附・思い出に残るこの一冊「ハワイ」海外研修のアルバム		37
編集後記		48

参 加 者 名 簿

No	氏 名	所 属 ク ラ ブ	No	氏 名	所 属 ク ラ ブ
1	藤 井 恵 子	東 高 校 I A C	41	大 谷 朋 史	浪 速 高 校 I A C
2	若 井 直 子	"	42	祖 川 達 也	"
3	立 岡 小 百 合	"	43	目 克 哉	"
4	酒 井 貴 子	"	44	大 賀 拓 也	"
5	藤 本 清 子	"	45	川 崎 健 一 郎	"
6	奥 埜 真 紀 子	"	46	上 野 雅 弘	"
7	森 本 孝 子	東 高 校 I A C 顧 問	47	本 間 靖 彦	浪 速 高 校 I A C 顧 問
8	中 西 昌 平	清 風 学 園 I A C	48	一 色 勝 利	大 阪 産 業 大 高 等 学 校 I A C
9	道 下 昌 孝	"	49	井 本 聡	"
10	福 田 琢 也	"	50	梅 川 貴 弘	"
11	香 渡 大 介	"	51	大 坂 顕 義	"
12	上 辻 俊 輔	"	52	大 森 浩	"
13	宇 都 宮 健 司	"	53	小 川 公 一	"
14	門 田 三 生 夫	清 風 学 園 I A C 顧 問	54	西 条 彰 修	"
15	神 谷 佳 郎	"	55	芥 藤 吾 朗	"
16	木 下 葉 子	大 教 大 附 高 平 野 校 舎 I A C	56	田 代 清 志	"
17	水 谷 佳 代	"	57	田 淵 義 浩	"
18	山 際 由 利 子	"	58	霧 原 徹	"
19	山 口 泰 代	"	59	古 田 禎 浩	"
20	牧 石 千 晶	"	60	松 井 美 幸	"
21	佐 藤 久 子	"	61	松 田 孝 之	"
22	瀬 田 純 子	"	62	森 本 誠	"
23	大 谷 博 子	"	63	山 口 兼 治	"
24	今 川 佳 代 子	"	64	平 岡 信 一 郎	大 阪 産 業 大 高 等 学 校 I A C 顧 問
25	宮 本 郁 子	"	65	河 津 浩 司	"
26	西 野 陽 子	"	66	佐 谷 麻 子	"
27	西 野 博 子	大 教 大 附 高 平 野 校 舎 I A C 顧 問	67	佐 谷 佳 子	"
28	塩 崎 勝 彦	"	68	二 宮 正 彦	大 阪 南 R C
29	利 川 陽 子	四 天 王 寺 高 校 I A C	69	平 岡 龍 人	大 阪 R C
30	小 野 登 史 子	"	70	的 場 勝 弥	大 阪 う つ ぼ R C
31	大 西 由 美	"	71	重 村 泰 弘	南 西 R C
32	和 泉 匡 余	"	72	佐 谷 稔	阪 南 R C
33	名 村 真 由 美	"	73	藤 井 則 郎	大 東 R C
34	長 浜 智 子	"	74	若 林 正 信	金 光 八 尾 高 校 I A C 顧 問
35	青 山 政 代	"	75	川 端 公 弥 子	"
36	篠 塚 由 香 子	"	76	田 村 芳 雄	サ ン ケ イ 新 聞
37	竹 村 圭 子	"	77	上 村 悦 道	近 畿 日 本 ツ ー リ ス ト 樹 上 本 町 支 店
38	東 口 尚 代	"	78	奈 良 利 彦	"
39	藤 谷 厚 生	四 天 王 寺 高 校 I A C 顧 問			
40	田 中 真 康	"			

ハ ワ イ 6 日 間 の 旅

《 日 程 表 》

月 日 曜	都 市 名	発着	現地時間	交通機関	ス ケ ジ ュ ー ル	食事
1 昭和62年 8月23日 (日)	[A班] 大 阪 成 田 成 田 [B班] 大 阪	発着 発着 発着	18:10 19:20 20:50	JL714 JL074	空路, ハワイ研修旅行へ	機
	[A班] ホノルル [B班] ホノルル	着 着	19:55 08:55 08:25 15:00 16:00	JL078 バ ス		
.....日付変更線.....						
2 8月24日 (月)	ホノルル				終日 ホームステイ (ホームステイ)	
3 8月25日 (火)	ホノルル		17:00 19:00	バ ス	ホームステイ ホストファミリーと共にインターナショナル ・ホスピタリティセンターに集合 フェアウェル・パーティー バスにてホテルへ (ホテル泊)	
4 8月26日 (水)	ホノルル		午 前 午 後	バ ス	ショッピングなど ポリネシア文化センター見学 (15:00~21:30) (ホテル泊)	朝 昼 夕
5 8月27日 (木)	ホノルル	発	10:50	バ ス JL073	空港へ 空路, 帰国の途へ	朝 機
6 8月28日 (金)	成 田 羽 田 大 阪	着 発着 着	13:50 19:35 20:35	JL127	入国手続終了後, 羽田へ 国内線に乗り換え, 大阪へ	

※ 発着時間及び交通機関等スケジュールは変更になることがあります。

《 宿 泊 ホ テ ル リ ス ト 》

都 市 名	HONOLULU
ホ テ ル 名	ALA MOANA AMERICANA HOTEL (アラモアナ・アメリカーナ ホテル)
所 在 地 ・ 電 話	410 Atkinson Dr. Honolulu, Oahu HAWAII 96814 U.S.A. (TEL) 9 5 5 4 8 1 1



巻頭の辞

第266地区ガバナー

松本良諄

第266地区インターアクトクラブの活動計画のひとつである海外研修の報告書が、このように立派に刊行されましたことは、喜ばしい限りであります。

今年度の海外研修の特徴は、はじめて2泊3日のホームステイを実施したことであります。私をはじめ、顧問の先生、御父兄の方には、外地でのホームステイに若干の不安もありましたが、学生諸君にはそのような懸念をふりはらって、全員無事に参加し、帰国したのであります。その学生諸君が接した貴重な体験の記録を集成したのがこの報告書であります。

この報告書によって、海外研修・ホームステイの成果を知り、その短所は反省し、長所は次年度への指針として、健全な国際理解と親善に役立つように努力せねばなりません。

当地区では、念願の「金光八尾インターアクトクラブ」が新設し、国際ロータリーより認証され、今後の活動が期待されるときでもあります。さらなる発展を祈念して、巻頭の辞といたします。



海外研修を終えて

第266地区 I・A・C

委員長 二宮正彦

今年度のインターアクトの海外研修は、昨年度同様に4泊6日のハワイ訪問とし、55名の学生を含めての参加人員は76名でした。しかし、今年度はじめての計画である2泊3日のホームステイを実施したため、ハワイでの研修は、当然ながらホームステイを主眼とした日程を組むこととなりました。御承知のとおり、4泊6日の1日は日付変更線による時差のために重複するのですから、4泊5日が正味といえましょう。

ホームステイの実情については、学生諸君の貴重な体験記録にゆずります。ホームステイの斡旋は、すべて現地のインターナショナル・ホスピタリティー・センターに一任しましたので、当方の意向が十分に受けいれられてはおりません。そのため、ホームステイの試練は多くの問題を内在していることと思います。しかし、私たちが予想外に困惑したことは、この海外研修が日本人の海外観光ツアーの影響を受けることです。約80名の団体がそのままハワイを往復することが至難となり、今年度は2班に分乗してハワイに到着しました。はじめての経験ですが、このような空路の過密さは来年度以降も続くようです。

つぎにホームステイの対象をハワイ、とくにホノルル市周辺のロータリアン・インターアクトに求めることは出来ないかということです。望ましい方法ですが、8月下旬に当地区の50名以上のインターアクトを受けいれる態勢については、まったく未知数としかいえません。現地のロータリー・インターアクトの実情を、くわしく理解することにより、双方の迷惑を回避することができ、友好の善意をむすぶ糸口を見つめることが可能となるには、なお若干の日時を必要とします。

海外研修・ホームステイに参加する学生諸君は、毎年交替するのが慣例ですから、この報告書は後輩への貴重な指針といえましょう。いうまでもなく、ホームステイの難関は日常会話です。とくにハワイのインターナショナル・ホスピタリティー・センターに加盟し、学生諸君を受けいれる家庭はボランティア活動の一環としての協力であり、日本人的な善意の認識は通用しかねる事例であります。はじめての海外研修としてのホームステイは、さまざまの問題も投げかけてきました。これらの問題をときほぐしながら、次年度の海外研修への予習を始めねばならないと思います。

ハワイで「国際交流」

インター
クトクラブ

中・高校生55人が

ハワイで体験、国際人の第一歩を学んだ。米人家庭でのホームステイなどを通じて、外国の地を踏むのは、ほとんどの生徒が初めて。真の国際交流をめざし活動する大地区・インタークトクラブの中・高校生ら五十五人が米国・ハワイの合同



ホストファミリーと一緒に踊る「河内音頭」

研修

国際ロータリークラブ第二
 区六つのほら帰国した。
 日米の文化、習慣の大きな

楽しかったホームステイ 家族同様の扱い...



ンターアクトクラブの生徒た
 ちで、代表は瀧風高三年、中
 西昌平君(こ)。
 一行は二十三日、大阪府藩
 から築路、ワイスの。さ
 ぞ同日夕、ホノルル市のホ
 ランティア団体事務所へ、受
 け入れ家庭(ホストファミリー
)の歓迎を受け、二人
 組で泊三日のホームステイ
 に入った。

当初、緊張で顔がひきつ
 っていた生徒たちも、ホーム
 ステイを終え、ホストファミリ
 ーとともにお別れ会の会場に

お別れ会で、ホームステイ
 中に撮った写真を見なが
 ら、ホストファミリーと談
 笑する女子生徒(左端の二
 人)。

現れた時には、すっかりお
 しゃべりした様子。十七歳の誕生日
 をホストファミリー全員に祝
 ってもらったという大歓迎。
 瀧風高三年、山口泰代さん
 は下手な英語でも遠慮せず、
 バンバン話しかけていんや
 とおられたと英会話にすっ
 かり度胸をつけたようだ。「

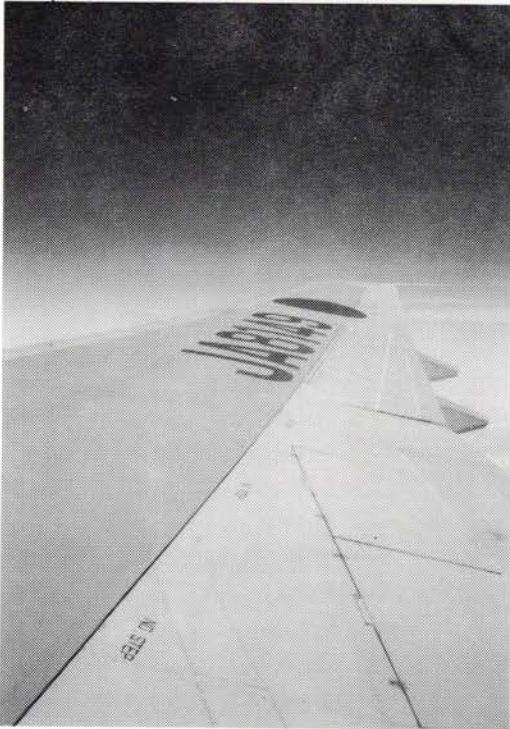
方、日米の文化の差に驚いた
 生徒も多く、日米三世の家庭
 に滞在した西宮三寺中三年、
 和泉屋余さん(こ)は「家庭内
 でも男女平等が徹底してい
 て、御手人がとんとんと奥さん
 の家事を手伝っていた。また
 瀧風高二年、福田琢也君
 (こ)は「家族全員が明るく、
 親子の会話がものすごく多い
 のびのびとしたなど話
 していた。

インターアクトクラブは、
 ロータリークラブが中・高校
 生に国際交流や社会奉仕の精
 神を学んでもらおうと資金援
 助などを進め、各学校でクラ
 ブ活動として取り組まれている。
 第二六六地区では十八年
 前に発足。海外研修は、年間
 の主要行事で、昨年はハワイ
 でショー、有吉知事(当時)
 への表敬訪問や米人家庭への
 一日訪問などを行った。

研修に同行した国際ロータ
 リークラブ第二六六地区の二
 宮正彦・インターアクト委員
 長は「ベトナム難民を支援す
 るで養子にするのがアメリカ
 人。今度のホームステイでも、
 生徒をお客さん扱いせず家族
 同様に扱ってくれた。日本人
 が外国人に、こころを開
 けるだろうか。生徒たちは、
 今度の体験を生かして、国際
 交流のあり方を模範に続けてほ
 しい」と話していた。



ホノルル空港にて



8月23日

一色勝利

僕は、外国旅行というものは、初めてでしたので、出発の前日から興奮して眠れませんでした。

でも出発日には、すごく元気がありましたので、まあ大丈夫だと思っていました。実は出発前に飛行機の中では、眠るように言われていたのですが、日本時間で言えば、そんな時間に眠ってはいないので、機内でも眠れずにいました。

眠れずにボーとしていた時に stewardess の方に、「操縦室を見学しますか」と言われ、僕たちは「そんなことをしてもいいのか」とも思いましたが喜んで見学しに行きました。これでも一応僕は、理系を希望しているので興味もありましたし、何と言っても、空を飛んでいる飛行機の操縦室を見るなどめったにできないという気持ちからは是非見たいと思いました。室内で、パイロットか

ら計器類の説明を聞いたのですが、何のことかほとんどわかりませんでした。でもとても素晴らしい経験ができたと思います。

見た後も興奮してほとんど眠れませんでした。おかげで次の日は時差ぼけで、2日分の疲れを感じながら、ハワイ第1日目を過ごすことになってしまいました。

第 1 日 目

大谷朋史

機内アナウンスで、あと1時間で、ハワイ・ホノルルに着くという放送が流れた。僕のあこがれのハワイにあと1時間で着く。僕の心の中はもう、うれしくてうれしくて、すでに興奮状態であった!!とはいかなかった。これから後のホームステイの3日間のことを考えると、単語をならべて英語を話す僕にとって恐怖と不安を肩に背負っている状態で飛行機の席にしばりつけられているような感じだった。

飛行機が、だんだん低空飛行を始めていった。ふと窓を見ると、なんと、もう島が見えてくるではないか。シートベルトを着用しながらの窮屈な体勢で窓に釘付けになった。その景色を見ながら、僕は「おお!」「おお!」ただそれだけしか言えなかった。その景色というのは、口では言い表すことのできない、なんともすごいものであった。体が、感動で、少しふるえていた。何か、自



分が生まれ変わったように新鮮味を感じた。その自分が感じた口では言いあらわせない感動、そして新鮮味が、ハワイの景色だ、という感じだった。

飛行機がホノルル空港に着陸した時、あの不安と恐怖はすっかりなくなっていた。もう気分は、アメリカ人になりきっていた。

此処は何処

香 渡 大 介

長い闇夜を抜けると、そこは太平洋上空。空は真っ青で白い雲の上を飛んでいた。高度は、4,000フィート。外の気温は-54℃。実際は、見た目とかなり違った。飛行機の中から下の雲海を見ていると、飛んでいるというより雲の上を滑っているようだった。

そんなことを考えているうちにハワイに近づき、ついにホノルルに到着した。しかし、この時の実感としては、あまりハワイに来たという感じはせず残念だった。というのも、入国審査や税関で、向こうの人が日本語で話して来たからだ。いくら日本人だからといっても、英語で会話がなかった。入国手続きがすみ、市内観光のバスを待っている時にレイをかけられ、ハワイに来たという感じがした。しかし、いくら何でも日本人が多すぎると思う。どちらを向いても日本人。そして、何処にいても日本車。これではまるで、日本にいるようだ。

ホノルル市内 観 光



市内観光をふり返って

立 岡 小百合

7時間もの間、飛行機に乗り、ハワイに到着しても、私はまだハワイに来たという実感がわかなかった。気候も日本と大差ないように思えたし、第一、見渡してみても日本人だらけだったからだ。観光の為、バスに乗り、まわりの景色をじっくり見て初めて「ここはハワイなんだ。」と思った。この観光で一番残念に思ったのは、風の名所といわれている、ヌアヌ・パリに、涼しいなと思えるほどの風しか吹いていなかったことだ。楽しみにしていた所のひとつただだけに、本当に残念だった。でも、風の吹いていないヌアヌ・パリなんて、そう体験できるものじゃないかもしれないと思ったり、今度またハワイを訪れた時の楽しみになると思ったりもした。





想像していたハワイ

井本 聡

ハワイに到着してすぐに、バスでホノルル市内の観光をしました。

僕が想像していたハワイはもっと田舎でビルなどあまりないものと思っていました。

しかし、そうではなく、高いビルなどがたくさんあり、交通量も多く、人もたくさんいて、自分の想像していたものとはほとんど違いました。

そして、驚ろいたことがあといくつかありました。一つは日本製の車が多いこと、もう一つはハワイの天候についてです。

ハワイは、よく晴れていていい天気だと思って



いると、急に「台風がやってきた」と思わせる大雨が降ったと思うと、急にやんで、もとの晴れた空になったりと、日本と違うところがたくさんあり、驚かされたことがたくさんありました。

最初の第一歩

今川 佳代子

海外旅行もホームステイも初めてで何もかもが新鮮に感じられる私達は、すっかり舞い上がってホノルル空港についた。

ホストファミリーの人たちはどんな人たちだろう、初めて会った時なんて言えればいいかなあ、早く遊びに行きたいなあ、などという期待で胸をふくらませながら、ホスピタリティーセンターで彼らを待った。

10分たち20分たち次々とむかえがきて、みんな楽しそうに去っていく。また一組二組へり、とうとう私達を含む四組だけになり、教大平野の売れ残りコンビになってしまった。いっこうに來られる気配がない。もうこれじゃないんじゃないかという不安が頭をよぎる。数十分がとてもし長く感じられた。ついに私達の名前がよばれた。

さあ今からだ!

そして私達の未知の島での冒険が始まった。

ホストファミリーの出迎え

宮本 郁子

「ALOHA!!」のジョン・アングランドさんの温かい一声。

私達のホストファミリーの出迎えて下さる気配のない間は、初めてのホームステイへの期待と不安でいっぱい緊張した時間が流れました。私の英語が本場アメリカで、勇気を持って話せるのだろうか、ちゃんと理解してもらえるのだろうか、相手の話がわかるのかなあ、など時間がたつにつれどんどん不安になってきていた私。

あの温かい一言が、普段の私にひき戻してくれました。やさしいジョン。スペイン系で陽気なバイオレット。人なつこく一人っ子のクリスティース。

ファミリーや英語への不安は一瞬のうちに吹き飛び、これから始まる貴重な体験への希望をふくらませて、アングランドさん一家の車へ乗り込みました。

Home Stay ～1日目～

大谷 博子

待ちに待ったホームステイ。

ホストファミリーはどんな人だろう。行きの飛行機の中ではそんな事ばかり考えていた。

ALOHA! ホノルル空港に到着して市内見学の後、いよいよホストファミリーとの対面の時がやって来た。ドキドキする緊張の一瞬。しかし、私達を迎えに来てくださるはずのファミリーがやっと来られた時刻は4時30分過ぎ。小々落胆しな



がら友達と2人、外車で家に向った。家に到着して早速連れて行ってもらった所は、米軍基地のある真珠湾内のプール。1つ2つの星の光を浴びながら、ママ、ダニエル、ダイアンと私達2人、5人で泳いだ。

ハワイに来て気づいた事は、父親が何の抵抗もなく、料理を作ること。この日は、ハンバーガーとスイカだった。

I'm tired. 風呂に入って友達と2人、ベッドに寝ころんで、芽生え始めた不安を胸に眠りについた。1週間分の1日が終わった。



8月23日のハワイ

名村 真由美

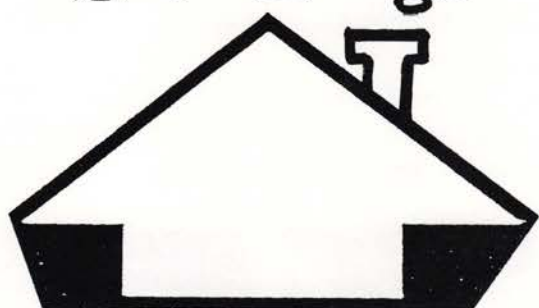
今回の海外研修の中で一番心配していたのは、ホームステイでした。英語の成績も良くないのに、英語を日常生活の中で毎日使っている所に行き、だいたいおなのか、すごく不安でした。

夕方、ホストファミリーの人達が迎えに来てくれた時、何んて言ったらいいのかわからなくて、笑ってばかりでした。それでも、たくさん家族のことやハワイのことについて話してくれました。そして私達が少しとぎれてる英語で話してみると、笑顔で親切に答えてくれました。すごくうれしかったです。

家に帰ってから私達が、日本からのおみやげをわたすと、とっても喜んでくれました。でも日本の絵はがきを見て、奈良の大仏さんのことを私達よりよく知っていて、自分が情けなくなりました。

このホームステイをしてみて、たくさん日本とのちがいもわかったし、すごくいい思い出になりました。

ホーム ステイでの 思い出



ホームステイで

佐谷佳子

私が紹介されたホームステイ先は、ご主人がアメリカ人、奥さんが日本人で、4才の女の子と2才の男の子のいる家庭でした。一番心配していた言葉も、奥さんにいろいろと助けていただいたので困ることなく話がはずみました。

ただ、子供達はまだ小さいので、英語と日本語がごっちゃになって、はじめはとまどいました。『How come?……どってなの?』とか『Kadyの?』とか。しまいには英語、日本語どちらを言っているのかわからなくて、自分もごちゃまぜにして話していました。一日中、かわいくて元気いっぱいの子供達と遊んで疲れたけど、充実した日がすごせたと思います。別れ際に2才の男の子が言った言葉『Bye-bye, またね』が忘れられません。



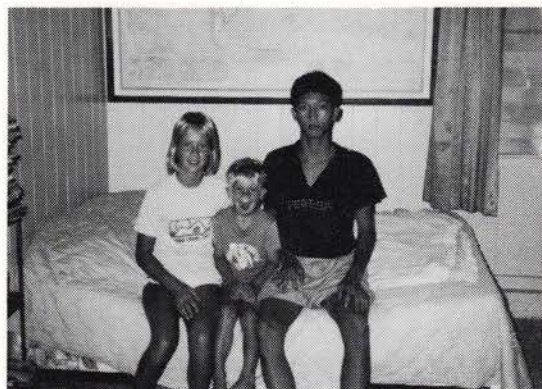
オーバーか自然か

宇都宮 健 司

海外研修のメインともいえるホームステイ。ぼくは、これを一番の楽しみとしていた。ホストファミリーが出迎えに来てくれた時は、心臓がどきどきしていて頭には血がのぼって『How do you do?』と話すのが精いっぱいだった。ホストファミリーはいい人達ばかりで、ぼくもじょじょに慣れていった。会話が難しすぎたり、速すぎたりしてそのことを相手に言うと、丁寧に教えてくれたりした。

アメリカ人ですばらしいなと思ったことは、喜ぶとき、その喜びを最大限に顔や体で表そうとする。だから、ぼくもなぜか愉快になった。日本人ならそうはしないだろうと思った。

最後のわかれのときは、さすがに寂しかった。ふり返ってみると、やはり生活をしていながらで英語力がまだまだだと痛感した。しかし、このホームステイによって、今度また会う機会があるときまで、もっともっと英語を勉強していこうというファイトがでてきた。

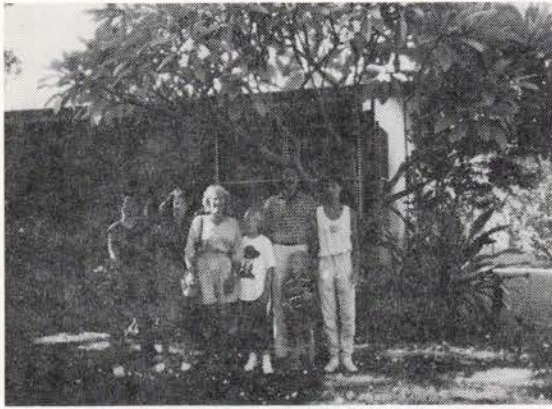


短かったホームステイ

上 辻 俊 輔

8月25日はホームステイの最終日。午前中はホストファミリーの人達とショッピングへ行き、午後からドライブへ出かけた。車窓から見たものは、広く地平線までつづくパイナップル畑、すいこまれるような青い海、波にけずられた岩、1年中霧につつまれている南東の山々など、あまりにも壮快で思わずカメラを手にしたほどだった。

夕方4時、ホストファミリーの人たちとインタ



ーナショナルホスピタリティーセンターに集まり、別れのパーティーが行われた。名残りおしくも握手でかわした別れの言葉、あの時の感動は一生忘れられないことでしょう。

この2日間のホームステイは、僕にとって短かく感じられました。再び異国でホームステイができるのなら、今度は長期にわたるホームステイを経験したいです。

8月24日ホームステイ

田代清志

僕がホームステイしたMOOREさん一家は、共働きなので昼間はずっと留守番をしていた。その中で悲惨だったのは電話がかかってきた時だった。相手は家族の者だと思って話すわけだから、冷や汗ものだった。必死に知ってる限りの英語をしゃべったが、無駄な抵抗だったようだ。この日の夜は色々な事を話したが、その中でも「日本では毛虫を食べるのか。」と聞かれた時は本当に驚いた。僕はすぐ“**No!**”と答えた。それからおみやげの扇子を渡した。御主人は使い方がわからなかったみたいだったので、慌てて教えてあげた。こ



の家にはダスティンとキャサリンという2人の子供がいた。キャサリンは赤ちゃんで、よく動き回っていた。ある時、キャサリンが扇風機の方に向かっていたので、心配して見ていた。すると案の定、扇風機に手を掛けようとしていたので、慌てて連れ戻したりした。その時奥さんは、台所で食事の準備をしていたみたいだった。とにかく赤ちゃんは見ているだけでも楽しかった。

留守番の多いホームステイで、日本を出発する前の期待通りにはいかなかったけれども、このホームステイでアメリカの家庭というものを体験できて本当に良かったと思う。



竹村圭子

緊張と不安の連続だったホームステイの初日から1日が過ぎました。ようやく英語にも慣れ、相手の方が言っておられることが少し分かるようになりました。でもこのようになるまで、大変時間がかかりました。なぜなら、私達が出会ったホストファミリーの人達は、全く日本語が話せず、予期はずれの私達にとってただ相手の方が言いたいことをゆっくり理解しようとするだけで、ほとんど言葉にはならなかったからです。それでこのままではいけないと思い、単語をめちゃめちゃに並べ、Japanese-Englishや手などを使い一生懸命話しかけました。その成果があって相手の方に返事を返してもらった時は、本当に涙が出るくらいうれしかったです。この時私は、むちゃむちゃな英語でも一生懸命やれば相手の方に伝わるんだなあと感動しました。欲をいえば、もっと英語を勉強してすらすらと英会話ができればなあという気持ちでいっぱいでした。この研修は私にとって本当によい勉強になったと思います。

8月24日 晴れ

斎藤 吾朗

青い海、白い砂浜、まだ私の頭に残っています。私たちのホストファミリーの人は、この日は海へ連れて行ってくれました。私はそこへ着いた時、まず「beautiful」という言葉だけが、連続に口から出ました。

そしてそこで私は、初めて魚の餌付けをさせてもらいました。青や黄の魚、大きいのも小さい魚が私の回りによってきてくれるのが、なぜかリッチな気分になってくれました。

昼から、また別の場所へ移動しました。今度は午前中の珊瑚礁ではなく、少し波があるところでした。そこでは、ブギボートというサーフボードを小さくしたものをチャレンジさせてもらいました。

そこで私は、初めてホストファミリーの子供達と話しができたと思います。私はそれまで人みしりをして、話しかけにくかったが、向こうの子供達はとても私に気をつけてくれて、話しかけてくれました。その時私は、うれしさとその反面はざかしさを感じました。

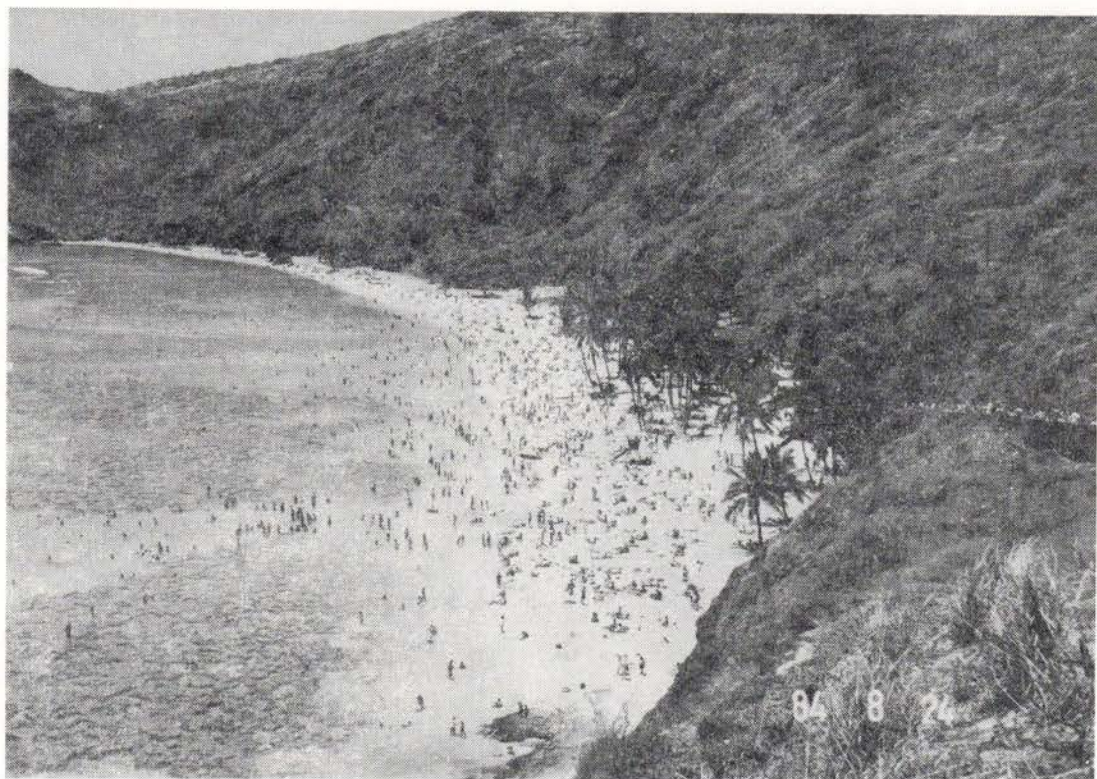
この体験で私は、自分をアピールするという点でハワイの人達は上手に接しているが、その点では私達は少し劣っているように思いました。

CHRISTY

利川 陽子

ハワイに来て2日目。ふんわりとしたプルメリアのおいと、さらっとしたハワイの風におこされたのは6時30分でした。私のホストファミリーのお家は山の辺にありました。ここから見える夜のハワイは、それは素晴らしいものでした。

朝ごはんはデッキに出て食べました。初めての経験です。そこでもいろいろな会話がありました。CHRISTYは少し日本語が話せますが、会話はほとんど英語です。最初はとまどいましたが、おちついて聞いてみると結構良くわかったのでホッとしました。CHRISTYは私と同じ中3で、女子校なのでとても話があいました。学校のこと、音楽のこと、映画のこと……。お花をつんでレイと一緒に作ったり、現地の人が行くいろんなスーパーマーケットへつれて行ってもらったり、海へ行ったり。海へ行った時は一緒に歌を歌いました。な





んと日本の童謡を知っているんですよ。私はすごくびっくりしました。もう一つびっくりしたことは、家族の会話がとても多いことです。私も聞いていて笑えることとかもあって、家族としてとけこむのは早かったと思います。夢のような毎日でした。

最後、空港へお母さんとCHRISTYが見送りに来てくれました。死ぬほど嬉しかったし淋しかったです。このまま時間がとまってしまえばいいのに……。そう思いました。でも私はこんな温かい思い出をプレゼントしてくれたこの素晴らしい家族に、とても感謝しています。そしていつかまた、CHRISTYとプルメリアのレイを作りたいと思っています。

ホームステイ中の観光

中西昌平

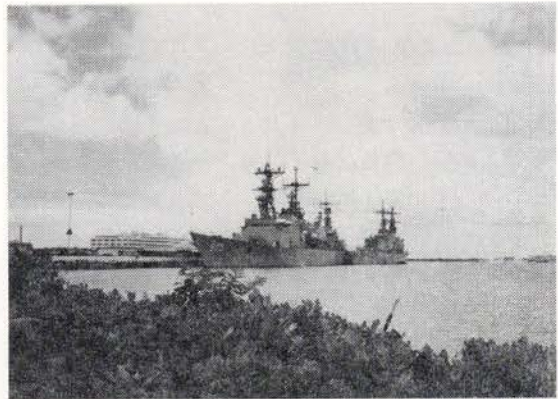
3日目、ホストファミリーの方2人と近所のおじさんが、ぼく達2人をパールハーバーへ連れて行ってくださった。記念館では40年以上も昔の島の風景や軍艦・兵隊さん等の写真や戦艦や港の模型等があり、見てまわった。日本人観光客は意外に少なく、戦争を知らない世代の白人系の人が多く訪れていた。彼らはどんな思いで当時の記録を見ていたのだろうか。

静かな公園で強い日射しにジリジリと焼かれて

いると、こんなに平和に見えるハワイにも戦争があったのだろうか、今もその苦しみを受けている人がいるのだろうかと思わしくも思った。

15分間の短い記録映画を見た。日本の飛行機が港内の大きな軍艦を次々に爆撃していく。担架で運ばれるハワイの兵士。沈むアリゾナ号。ハワイの人にすまないと思った。仲良くなって理解し合いたいと思った。けれど日本人は加害者で、悪い事をしたのだという感情が、ガイドさんにも映画にも感じられ悲しくなった。「パールハーバーを忘れるな。」を悲劇をくり返さないための言葉だと思いたい。

ホストファミリーのキャティさんに感想をたずねられた。「僕達の世代の日本人は戦争を知らない。日本とアメリカは戦争をしたが、もう終わった。若い人達同士は仲良くなることできるはずだ。」と答えた。もっと何か言いたかったがうまく言えなかった。キャティさんは、「私も君達と仲良くなりたい。」と言って笑ってくださったのでほっとした。それにうれしかった。ホストファミリーの温かい僕達への思いやりのおかげで、パールハーバーを悲惨な戦争の傷跡としてではなく、日本とハワイの友好関係を結ぶための出発点だと思えるようになった。



ハナウマビーチで

藤井恵子

ハワイに着いて2日目。四天王寺の人達と、そのホストファミリーの方と5人で、ドライブがてら泳ぎに行った。最初に訪れたハナウマビーチは、ハワイの中で最もきれいなビーチだと聞いていたので、見てみたいと思っていた。実際、海の色が



グリーンで本当にきれいで感激した。

その次にハロナ潮吹き岩へ行った。初めは波がそう高くなかったので、単なる岩ばかりと思っていたけれど、大波が打ち寄せて来るとすごい勢いで噴水のように上がった。これを見て、自然の力は偉大だとつくづく驚いた。

最終目的地、念願のビーチは人が少なく、海がとてもきれいだった。見渡してもゴミひとつなく、これも驚いた。そしてそこで持って来たお弁当のおにぎりを食べた。まさかハワイのビーチでおにぎりを食べるとは思わなかったが、本当に良い思い出になった。

ホームステイ最終日

古田 禎 浩

早いもので、楽しかったホームステイも、今日で終りです。昨日は海へ行き、今日は買物、パールハーバーの見学等があり、とても楽しかったです。

サヨナラパーティーに行く車の中で僕は、お別れの言葉を英語で伝えるべく必死で覚えています。パーティーもそろそろ終るころ、友達の一人が、別れを惜しんでホームステイ先のおばさんと泣いているのが目に入りました。彼は相手に何かを伝えようとしています。何を言いたいかは、痛いほど良く分ります。言いたいことを相手に伝えられないというのは辛いことです。しかしこういう場合、言葉は不必要かも知れません。僕はおばさんやおじさんと握手を交わしながら、車の中で覚えた、「御世話になりました」と言おうとするのですが、出てくるのは涙しかありません。ブラ

イアン（ホームステイ先の子供、14才）に「君は僕のすばらしい友達だ」と言いました。もちろん単語だけのいいかげんなものです。しかし、彼もまた涙を流しながら「イエス」と言ってくれるのです。僕は彼と力強く握手を交わし、「グッバイ」と言ったのです。

僕はブライアンや家族のこと、そしてこのすばらしい思い出の数々を、一生涯忘れることはないでしょう。



8月24日

西條 彰 修

8月24日、朝起きると、僕の英語が通じるかどうかなどのいろいろな不安をもってホストファミリーに朝の挨拶をしました。僕たちのホストファミリーのお母さんはユタ州の人で、お父さんはハワイアンでした。だから二人とも少しだけ言葉のちがいがありました。もう一人16才の男の子がいました。彼はサーファーでした。彼らは僕たちがうまく英語をしゃべれないのを知っているので、文法的に違っていても理解しようとしてくれたのでとてもうれしく思いました。

しかし、残念なことは、自分が英語を話すことはなんとかできたと思いますが、相手の言葉を理解しようと努力したにもかかわらず、自分には十



分に理解できなかった事です。そのために相手を傷つけるようなことを平気で言ったりしているのではないかと思い、いろいろ考えました。でも晩にホストファミリーの人と「ウノー」と呼ばれるカードのゲームをやりました。その時には、言葉がなくても感情の表わしかたなどで心が通じあうのでよかったです。この晩にあった事柄によって僕は、人間は言葉が通じなくても心があれば理解しあえるんだなと思いました。

開放的なアメリカの人々

山 際 由利子

ホストファミリーの人達は私達をお客さん扱いせず、もっと身近に接してくれたのでとてもうちとけやすかった。私の英語は頼りないものであったが真剣に聞いてくれ、私達がわからない英文は根気よく説明してくれた。

アメリカの同年代の女の子達とは、いっしょに海へ行ったりした。彼女達は自立心が旺盛であったが、親も子も互いに信用しあっている様子が会話からでも感じられた。ほとんどの女の子が煙草



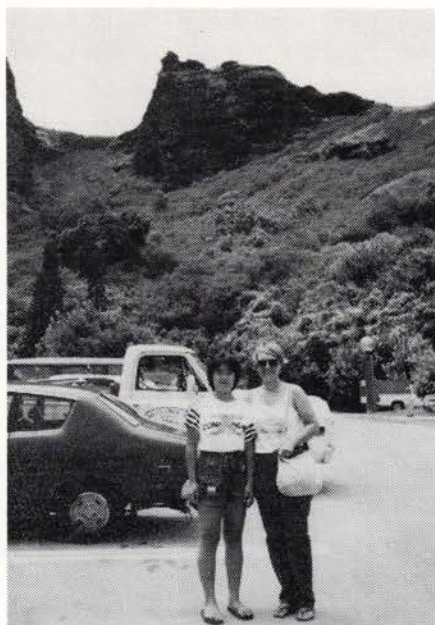
を吸うのには驚いてしまったが、隠れて吸っている訳ではないし、そのオープンなところが、かえって新鮮に見えた。

むこうの人達は日本人がアメリカを知っている程日本の事を知っていない。しかし、どんな文化なのか、いろいろ興味を持っていた。日本人は、こういう事に受身的にならずに、もっと積極的に個人単位で日本について話していけば「国際交流」もより身近なものになると思う。

ホームステイ

山 口 泰 代

ホームステイ先の方達は、皆優しくかった。だけど、私は不安や寂しさを感じた。



私のホームステイ先は1日中友達も多勢来ていて賑かだった。そしてみんな、気を使っているのろと話し掛けてくれた。(ジェスチャーをしたり、何度も表現を分かり易く変えてくれたり。時には日本語にまで挑戦してくれた。私達の話す事には一語も聞き逃さないように耳を傾け、笑顔で答えてくれた。)

でも分かったのは私達のために話してくれた言葉だけで、普段は何を言っているのかさっぱり。そして、その会話がひどく気になった。“Do you want……?” よくこんな風に聞いてくれた。親切なこの言葉さえ、「仲間じゃない。」って感じ

た。

ホストファミリーには、バーンズという7才の男の子もいた。彼は体でぶつかってくれた。話が通じなくても、顔一杯、体一杯で表現してくれた。だから私も心が和んだ。

私が本当に体一杯ぶつかれなかったから、寂しかったのだと思う。相手にも寂しい思いをさせたと思う。

ホームステイの皆さん、ごめんなさい。もっと自分をしっかりさせたい。

HOME STAY

篠塚 由香子

私は、ホームステイをしたのは初めてだったので驚くことがたくさんありました。その中で、一番驚いたことはアメリカの人の子供のしつけ方についてです。私のホストファミリーに、9才のエイミーという女の子がいたのですが、すごくしっかりしているというか、自分の事は自分できちんとやるんです。食事のあと、エイミーが自分の使ったお皿を洗っているのを見て、びっくりしました。私が9才ぐらいの時、お皿を自分で洗った事なんてなかったです。「人を頼らないで、自分のできることは自分でする。」あたりまえの事なんですけど、なかなかできないことだと思います。この考え方を、見習いたいと思いました。

たった3日のホームステイでしたが、すごくいい思い出がたくさんできました。別れる時に、私は単語並べしか出来なかったの、「もっと話をいっぱいしたかった。」と言うと、ホストのお母さんは、「英語を勉強して、またハワイに帰っておいで。」と言ってくれました。その言葉が忘れ



られません。今度は、英語をしっかりと勉強して、エイミーとお母さんに会いに行きたいと思います。

和泉 匡余

よく海外旅行をすると時差ボケをするというのが、私の場合、そんなものはなかったです。それよりも、ホストファミリーが、どんな人かが気になっていました。でも、そんな心配は無用で、とってもいい人でした。

ホストファミリーの人達は、まず始めに、知り合いの家に連れて行ってくれました。その家には車庫にモーターボートがあったり、庭にはバナナやサクランボなどがあって、とてもいい感じの家でした。その家には14才の女の子がいましたが、15才の私よりも、ずっと大人ぼくて、すごくうらやましかったです。そこで困ったことは、言葉があまり通じなかったことです。向こうが何か言ってくれても、わからなかったりして、ただただ笑っているだけでなげなかつたので、今度、何かで旅行する時まで、もっと英語を勉強しようと心に決めました。



2 日 目

祖川 達也

ホームステイ2日目、朝、目をさましてやっとハワイに来た実感がわいた。

家族の人々がとても親切だったので、初めてあった日の何処に連れて行かれ、どうなるのかという、不安や緊張は消え家族の人々とようやく打ち解けることができた。僕は、英語があまり得意ではないので、間違った英語やジェスチャーなどを使い、なるべく家族の人と一緒にいるようにした。そうしたなかで言葉が通じなくともジェスチャー



や表情でも互いに気持が通じあえたりすることに気付き、ハワイに来てとても勉強になったし、いい経験になったと思う。残り一日もなるべく英語とジェスチャーを混じえて体当たりでぶつかりたいと思う。

大西由美

ホームステイの2日目、私達はホストファミリーと海へでかけた。ハワイの海は想像していた以上にきれいだった。

海へ行ってびっくりしたことは、海にはとってもきれいな魚がたくさんいて、私達がえきを与えると手でさわれそうなくらい近くへ寄ってくることだった。

もう一つびっくりしたのは、ビーチにあるトイレにはドアがないことだった。みんな着替えるのも堂々として、こっちがはずかしい位だった。

海からの帰り、ホストファミリーの友人のお宅へでかけプールに入って帰ってきた。

2日目の夜は、明日でホームステイが終わりと思うと、悲しくなってなかなか寝れなかった。



ホストファミリーと会えたし、いろんな所にも行けたので、ハワイの海外研修はとっても思い出に残ると思う。

変な心配

松井美幸

私がお世話になったホストファミリーのおじさんと娘さんが、昨日仕事や学校を終えて帰って来たのは6時を回っていました。だから今夕5時からのフェアウェル・パーティーに家族の人全員が間に合ってくれるかどうかと変な心配ばかりしていました。できたら、家族の皆さんがそろっている中でお別れを言いたいのです。おばさんに2人の帰る時間を聞いたら、おじさんは4時ごろに、娘さんは3時半ごろに帰って来るとおっしゃったので安心していました。



しかし、4時を過ぎてはだれも帰って来ませんでした。時計を見ながら荷物を整理していましたが、落ち着いてはいただけませんでした。5時になっても帰ってきませんでした。私は、5時にはホスピタリティーセンターに行かなければならないと思っていたので「もうだめだ」と思いました。しかし、おばさんは出発しようとはしませんでした。そして5時15分ごろにおじさんと娘さんが2人そろって家に帰って来られたので、ようやく安心できました。

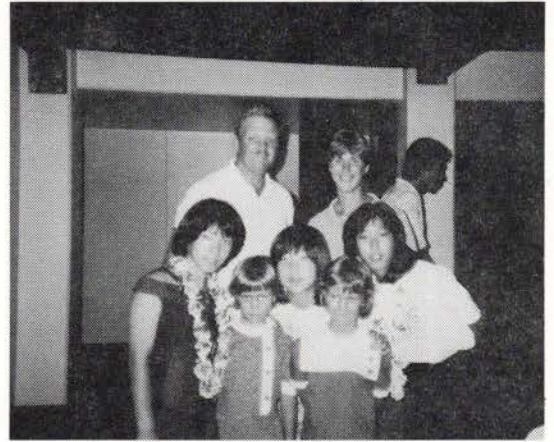
別れるのは少し悲しかったけれども、家族全員の顔を見てから別れることができたので、本当によかった気がします。

驚 き

大 森 浩

僕は日本人とハワイの人のお客さんに対するもてなし方の違いを初日で感じました。日本人ならとても厚くもてなすはずですが。しかし僕はハワイで特別なもてなしというものを受けませんでした。それもそのはず、僕はホームステイとして行ったからです。僕がその事に気付くには少し時間が必要でした。完全に「お客さん」気分でした。ファミリーの一員となっていたのです。

それにしても僕はハワイの人の親しみやすさにはとても驚かされました。なんの抵抗もなく異国の学生2人をファミリーとして受け入れ、普段と変わらぬ生活を私達とともにしてくれました。一瞬、昔からその家に住んでいたかのような気がしたくらいです。もしこれが日本で、ごく普通の日本人の家に行ったのだったら、すぐ見栄を張りたがる我々の事だから、おそらく日常の生活を伺うことなどできないだろうと思いました。



ホームステイを終えて

牧 石 千 晶

楽しかったホームステイも終わってしまいました。この3日の間に私は数えきれない程多くの事を見、聞き、そして感じました。

少ない期間だけれど本当の家族のように扱ってくれた人達。そして夢のように過ぎていった3日間。私はこのホストファミリーの人達、そしてこのホームステイを一生忘れることはないだろう。

ホームステイという国際理解の本当の原点をはじめて体験した私達。まだまだ国際人と呼ばれるには未熟だけれど、この体験を生かし少しでも近づきたいと思います。

最後になりましたが、私達にこのような体験を与えて下さったロータリアンの方々、顧問の先生方、そしてホストファミリーの方々に心からのお礼をしたいと思います。

本当にありがとうございました。





フェアウェルパーティー



霧原 徹

ハワイに着いて今日で3日になり、観光としては今日が最後の日になってしまいました。午前中ショッピングということで、グループごとで自由行動となり、今までバスなどで移動することの多かった僕達には、目で感じていたハワイが、体でまた足の裏で（現地までの道のりは徒歩約1時間）実感できました。あれや、これやとお土産を選んでいると、ふと日本の両親のことや、先生のこと、友達のことなど、明日から待ちうけている現実の影がちらつきますが、それもすぐにこの空気が吸い取ってくれました。苦になることは何もない、夢のようなところです。

ポリネシア文化センターを見学し、夕食を食べてショーを楽しみ、ホテルに着き荷物をまとめてベッドにつくと、ホームステイ先の人に連れてってもらった美しい海のこと、夜のドライブ、またパールハーバーのことなど、窓の外のアラモアナの夜景と重なって見えてくるようでした。隣りでは、同室の友人が軽い寝息を立てはじめました。日本語放送も終わりをづけ、夢が覚める時が近づいてきました。



Farewell Party

佐谷 麻子

ハワイに着いて3日目。ホームビジットを無事終了した人たちが（家族の人とともに）次から次へとパーティー会場に集まってきました。ほとんどの人たちが、日にやけて真っ黒、真っ赤な人もいました。夕暮れ時、女子のゆかた姿とともにパーティーは始まりました。みんな、ホームビジット先の人との別れがづらいようで、泣いている女の子もいました。このパーティーで、私にとって一番思い出になったことは、原地の女の子がハワイアン・ダンスを踊っている近くで、私たちのホームビジット先のハワイアン・ダンスを習って間もない4才の女の子が、いっしょうけんめい躍りを真似しようとしていることでした。それはもうとてもかわいかったです。

手紙の交換などして、もっと交友を続けていきたいと思っています。



ホームステイを終えて

瀬田 純子

3日目になると、もうすっかり緊張はとけ、ファミリーの方々ともうとけ、夜には別れなければならぬのが残念だった。

3日間という短い時間ではあったが、私達を「お客さん」としてではなく、「家族の一員」として扱って下さったことが、とてもうれしかったです。私達、日本人には、こんな心のこもった歓迎ができるのでしょうか。国際理解を深めるということは、単に英語が話せるかどうかの問題ではなく、「どれだけ自分たちの気持ちを素直に言い合い、相手を理解しようとするか」ということではないかと考えさせられました。ホストファミリーの方々が別れるときに泣いて下さったのを見て、ファミリーの方々も私達と同じことを感じて下さったのだらうと思うと、胸が熱くなりました。

私達に、こんな貴重な体験を与えて下さった人々に感謝します。



フェアウェルパーティー

若井 直子

ハワイに来て3日目、ホストファミリーの一員となってやっと生活に慣れ始めたのに、もうお別れという日がやってきた。フェアウェルパーティーの会場は初めはみんな楽しそうにホストファミリーとおしゃべりしたり、写真を撮ったりしていた。しかし、とうとうこれでお別れという時、どこからか誰かの泣き声が聞こえた。それにつられてか、みんなどンドン泣き出し、別れを惜んでいた。私は泣かずに明るくさよならしたかったが、



やはり泣いてしまった。それだけ別れるのがつらかった。

ハワイに行く前は、ホームステイに対して不安を感じていたが、実際に体験してみて本当によい思い出になった。これからはこんな機会はあまりないと思うので、ホームステイの経験は貴重だと思った。

フェアウェルパーティー

大賀 拓也

25日の夕刻から、ホストファミリーの皆さんといっしょに、お別れパーティーが催されました。

食卓を囲みながら、それぞれに楽しい会話がはずみました。僕の場合は、単語を並べ、ジェスチャーを交えての会話でしたが、結構理解してくれたので、自分が何を言いたいかという意志さえあれば通じるものだという気がしました。

続いての余興では、可愛い女の子の見事な踊りを見せてもらったり、私たちが河内音頭を踊ったりしましたが、もっと時間があればよりいっそう盛り上がり楽しいパーティーができたように思



います。

最後のお別れの時、僕等のホストファミリーが居られず、挨拶ができなかったのが非常に残念でした。

Farewell Party

長 浜 智 子

今回の旅行において私が最も楽しみにしていたのは、やはりホームステイでした。常にホストファミリーは私達に優しい心で接してくれ、海に行ったり、ドライブしたり、話したり、大変素晴らしい体験をすることができました。しかし、この楽しい時間は夢のように過ぎ、気付いた時にはフェアウェルパーティーの会場でした。やはり今まで緊張していたのでしょうか、友達に再会するにつれ『ホッ』とした気分になり、その時の食事は最高においしかったです。食事の次は、ハワイの青年によるカラオケ、まだ十にも満たない少女によるフラダンスがくり広げられました。しかし河内音頭ほど盛り上がったものではありません。我々もハワイの人も一心となり踊りました。そしてパーティーも終わりに近づき、代表生徒による感謝の言葉、ミセスバーバラの別れのあいさつ……。ホストファミリーとの出合いを与えてくれたすべての人々への感謝を胸に、2泊3日のホームステイは終わりました。



ハワイ語 アラカルト

●アロハ Aloha と マハロ Mahalo

日常語となっている Aloha は、親愛感を伝える言葉。「今日は」「さようなら」といった意味。Mahalo は、感謝の気持ちを表わし、「ありがとう」。この2語はアチコチで耳にする。

●ケイキ Keiki ーハワイでは子供のことを Keiki という。英語のケーキ Cake と混合されやすい。子供はケーキが好きだから？

●響きの美しい言葉が多い

ラナイ Lanai (ベランダ)、モアナ Moana (海岸)、レイ Lei (花飾り)、ホノルル Honolulu (晴れた空) など。ラナイやレイは日常語として定着している。

●ハワイ語ミニ辞典

- 女性・妻 [Wahine]
- 男性・男 [Kane]
- 親しい友 [Aikane]
- 恋人 [Ipo]
- 白人 [Haole]
- 土地っ子 [Kamaaina]
- 海/海側 [Kai] / [Makai]
- 山/山側 [Mauna] / [Mauka]
- 東方 [Waikiki]
- 西方 [Ewa]
- 美しい [Nani]
- おいしい [Oho]
- はやく [Wiki Wiki]
- 恥かしい [Hilahila]
- おわり [Pau]
- 道 [Ala]
- 家 [Hale]

ホテルでの反省報告会と ポリネシア文化センター観光

大坂 顕義

8月26日、天候一晴。

僕達大阪産大高の生徒は、午前中ワイキキの方までショッピングに出かけた。

途中様々な風景を見る事が出来たが、その全てが僕達にとって珍しい物ばかりだった。

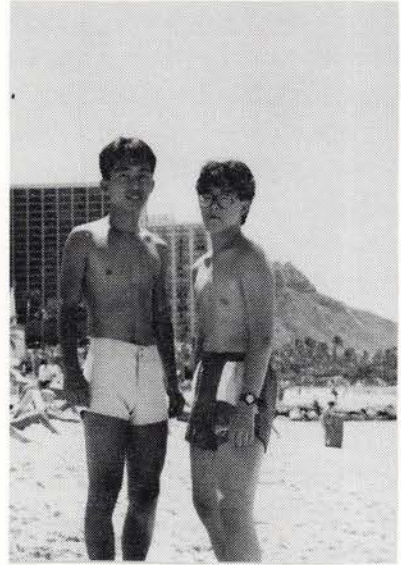
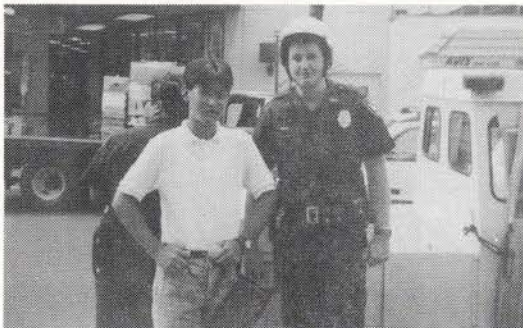
内でも驚いたのは、街中に誰でも入る事の出来る陸軍の公園があり、そこに戦車や大砲などが展示してあった事だ。勿論、現役の兵器ではなかったが、日本では自衛隊の祭りなどの以外は許可を取らないと旧型の兵器でさえも見る事が出来ないのだから、その時興奮したのは言うまでもない。

またその時、自分が今までずっと思っていた「開放的で自由な国アメリカ。」と言った印象を強烈にアピールされたような気がする。

しかし、日本は恒久平和を唱える憲法のもと、兵器に対する考え方が違う。自衛隊が合憲か違憲かという論争もあるが、このアメリカではこんな論争も起きないのが当然のような気がした。

ショッピング中にも「開放的な国アメリカ。」を感じた事がある。それは、アメリカ人に手を振ると、たいいてい人は手を振ってくれる。日本で同じ事をするると冷たい視線が返って来るだけだ。僕はそんな陽気なアメリカ人が好きだ。

今回の研修旅行で僕は、アメリカという国を実感したと共に、自分が一回り大きくなったような気がする。と言うと大げさだろうか……？



5日目輝くワイキキビーチ

自 克哉

別世界に入った感じで過ごしたホームステイも終わり、一息もつかずそのまま26日は朝からショッピングだった。

アラモアナショッピングセンターの前から念願のバスに乗り、着いた所はもうワイキキ。色とりどりの土産物屋やABCストアーなど、目に映る情景がみんな新鮮で頭の中で整理ができないほどだ。そんなわけで大分身体全体がフワッと浮いている感じが長く続いた。しかし与えられた時間は刻一刻と過ぎていくので、ゆっくりとどれがいい品物なのかと選ぶ暇もないので何も考えずにTシャツやキーホルダーなどを衝動買いしてしまった。

そして今日のメインイベントの1つ、ワイキキビーチだ。ショッピングの後、先生らと合流して5分ほど歩くと、「ついたぞ」と言われて、「えっ」という暇もなく目に飛び込んできたのが、青というよりも水色の海。このとき頭がワーッとになって、「夢にまで見たワイキキビーチがここにあ

る」と思うと、「やった」と思わず叫んでしまい、カメラを持つ手も少々震えていた。がしかし、時間の関係で30分足らずしか泳げなかったことはとても残念で仕方がないが、こんな短時間にこんなに大きな幸福感を味わったことは、僕にとっては今まで一度もなかったことなのでとてもいい体験をしたと思う。

アラモアナショッピングセンターで

酒井 貴子

ハワイでのホームステイも無事に終わり、4日目の午前中から、ホテルとつながっているアラモアナショッピングセンターに買い物に行った。何を買おうか昨日の夜から考えていたけど、実際行ってみると、あまりにも広すぎて、どこで買ったらいいのかと迷ってしまうほどの店が立ち並んでいた。もともと、ここは地元の人達のために作られた所だそうで、おみやげ屋とは少し違った、日常品の雑貨や服などが買える。でも、さすがハワイで一番Bigな所だけあって、リバティーハウスや白木屋など見るだけで1日かかりそうだった。

今回はおみやげを買うので精一杯だったので、あまり回れなかったけど、今度来る時は自分のものも買いたいなあ……。



感想文

梅川 貴弘

ホームステイが終わり、昨日の夜からアラモアナホテルに泊ることになった。明日はホテルから2時間位かかるポリネシア文化センターへの見学でした。文化センターのことはホストファミリーから少し話を聞いただけで、その話によると、太っている人が沢山いると言うことでした。そしてバスに乗ること2時間近く、やっと文化センターに到着しました。ゲートから一步踏み込むとやはりホストファミリーに聞いたとおり、太った男の人や女の人が沢山いました。そして文化センターの中の見学です。さすが文化センターだけあって、



その土地の建築文化や生活の文化の説明ばかりでした。その中で面白かったのは、タヒチの原住民が人食い人種だったこと、敵に威嚇する時、舌を出して威嚇することなどが面白かったです。そろそろ見学に飽きてきた頃、夕食を食べて、ショーを見ることになりました。最初のうちは各々の島の民族舞踊でした。そしてラストのファイヤードダンスには、血液が逆流しそうな感じがするくらいに興奮してとても感激しました。

ポリネシア文化センター

道下 昌孝

5万坪の広大な敷地の中に、サモア・マオリ・フィジー・マーケサス・タヒチ・トンガ、そしてハワイの南太平洋に浮かぶ7つの島々が1カ所に集まっていました。雨が降っていたのに、木で火をつけたり、高いやしの木に登っていったり、バイキングスタイルのディナーはちょっとまずかったけれども、それぞれの村で、各島に伝わる個々の生活様式や文化などを紹介していて、本当に「楽園」っていう感じでした。あと、バナナの大きな花を初めて見て、「ふーん」と思いました。



ポリネシア文化センター

川崎 健一郎

サモア、マオリ、フィジー、マーケサス、タヒチ、トンガ、そして僕達が行ったハワイ、南太平洋に浮かぶ7つの島がこのポリネシア文化センターに集まっていた。それぞれの村では各島々の生活様式、美術、工芸、歌、踊りなどいろいろなことをやっていた。生活用はほとんど原始的でめんどろなことをやってるなと思った。けど家の内装を見ておどろいた。なぜなら、とっても模様が



はでで、木のかわでつくったとは思えないような美しさだった。

夕方のショーではなんといっても南国の雰囲気がかたよってきた。これでやっとハワイに来たなと感じた。

ここで南太平洋に浮かぶ7つの島を同時に見学できてよかった。

ポリネシア文化センター

十小川 公一

ポリネシア文化センターへ行って初めに村の見学をしてみず感じたのは、村どうしが近くて生活様式は似ているけれど、あいさつのちがいや攻撃的な民族とそうでない穏やかな民族が共存しているということでした。

そして一番感じたことは、村の長の力は絶大だということです。それはある村では頭が良く戦い



が強い男が長に食べられたということです。このことからわかるように、どの国でも茫然とは生きられないということです。

総体的に見ればポリネシアの人々はとても明るくてユーモアたっぷりの人達ばかりで、日本人とは対照的でした。あの陽気な性格はポリネシアの気候と関係があるのだと思います。

センターをぐるっと回ってみて思ったことは、ポリネシアの人々の生活をもっと詳しく知りたかったと思います。木登りや火のおこし方などたいへん興味深かったです。

夕食を食べて後で各々の民族を見て、日々の生活の1つ1つがそのまま踊りになっているような気がしました。というのは、戦いの前には踊りをして力を爆発させている(?)のを見てそう思いました。

ポリネシアはやはり日本とは違います。同じ島国ですが、どこか神秘的だと思います。その神秘性も今のハワイにはなくなっていますが、日本がなくなしたようにも思います。

ポリネシア文化センターで

奥 埜 真紀子

私にとってハワイの研修旅行は、初めての海外旅行だった。その中で、ポリネシア文化センターで、ポリネシアの人々の昔からの生活などを見れたことはとても勉強になった。ポリネシアの島々にわけてつくられたそれぞれの家で、その島の昔からの習慣がすぐわかるようになってあり、火のつけ方ややしの実のとり方なども見学できて、生活の様子が手にとるようにわかり興味深かった。ショーでは伝統的な踊りのフラダンスや、火を使った民族的な踊りなども、とてもすばしかった。



見学した時、ガイドして下さった方なども学生の方で、みなさんととても日本語がうまくて驚き、また楽しく過ごしました。



ポリネシア文化センターに行って

水 谷 佳 代

楽しかったホームステイも終わり、ポリネシア文化センターの見学に行きました。

入って1番に見たのは、火をおこすところでした。そのお兄さんは、日本人を見つけるとすぐに「アロハ、イロハ、ヤマハ。」と言って笑いをとっていましたが、火がなかなかつかなくて……。でも火がついたときは、感動しました。それに、人喰い人種の役をしている人もおもしろかったです。それから、どこの島だったか忘れましたが、船の側面に耳をつけると、後ろからの連絡が聞こえるようになっていたりして、すごい知恵だなあと思いました。

夜のショータイムは、とにかくすばらしく、どれもこれも目を見張るものばかりでした。特に最後は、闇の中に赤々とした炎が美しく映え、感動的でした。

ハワイの人々

東 口 尚 代

ハワイに到着して、早くも、もう4日目。ハワイでの最後の日でした。

夕方、私たちはポリネシア文化センターへと向かいました。そこはとても広く、あの恐いジャングルとはちがった、楽しいジャングルのようなでした。

この日の出来事で私は気づいたことが1つありました。それは、私がある知らない人と少しぶつ

かったときのことでした。日本人なら、少しふり返るくらいで何も言わないで通りすぎていく人がほとんどでしょう。でも、ハワイの人たちはちがいました。ほんの少ししかあたっていないのに、“Excuse me” といつも返ってくるのです。私と出会った人たちみんなそうでした。私はこのことにとっても感激しました。少しのことでも、すぐにお互いにあやまり合えるということを……。日本とちがった海外でのよさ、日本人との考え方のちがいがはっきりと分かりました。

夜のショーでは、あまりもの美しさと激しい強さに驚かされました。

ハワイでの最後の夜は本当にすばらしい思い出となりました。



もうすぐさよなら

小野 登史子

ハワイに来てもう4日目。来る前はすごく緊張していたけど、やっとうなれてきました。でも明日になったら日本に帰らなければならないなんて、とても信じられないです。「せっかく来たのだから」と言っていたらきりがいいけど、もう何日かはハワイに滞在しときたいです。今日までで一番楽しかったことは、ホームステイ中にホストファミリーと海へ行ったり、食事をしたことです。他にも楽しかったこと、悲しかったことなど、たくさんあるけれど、ほんとうにいい経験になりました。



ハワイの中の日本

木下 葉子

今日は日本人が十八番とする買い物と観光の日だった。免税店では日本人がごったがえし、「歓迎」という筆で書かれた文字がデカデカと貼られ、店員は日本語で話しかけ、トイレのドアには英語よりも大きく「女」という言葉が刻まれていた。ここはハワイであるということを感じる方が難しい様な気がした。ポリネシア文化センターのガイドさんは日本語をあざやかに操り、日本人向け冗談を言い、私たちを笑わせたりもした。今日1日、私はずっと受け身であった。昨日までのハングリー精神は全く失われていた。ただただ日本の強大は経済力と自分勝手さをまのあたりに見せつけられただけであった。昨日までの感動がうすらいでいくのがわかった。なんとなく残念な1日だったが、また別の面で勉強になった。明日はもうハワイにお別れを告げなければならない。そう思うととても悲しいが、この5日間本当に充実した。

最後に、ロータリーのみなさん、ありがとうございました。



海外研修 を ふり返って



帰りの飛行機にて

青山 政代

飛行機の中で、ハワイでの日々を1日ずつ思い出すことにした。ホームステイがいちばん楽しかった。短い期間でたくさんのことを教えてもらった。おじさんには4時間も貿易や経済、日本の位置関係を話してもらった。

ハワイでは私がいなくなった今も、前と変わらない生活が続いている。ゲールはMTVを見て、おばさんはお掃除をして、おじさんはビールを飲んで。そして道端にはヤシの木がたくさん生えて。そう考えるとそこにいない自分が歯がゆくなる。本当にいい人達ばかりで、ハワイであったいやなことは、帰らなければならぬことだけのような気がする。

インターアクトクラブに入って良かった、こんなに強く思ったのは初めてです。

こんな貴重な体験をさせてくださって、先生、ロータリアンの皆さん、本当にありがとうございました。



帰 路

山口 兼治

27日の朝、アラモアナホテルを出発し、ホノルル空港に向かった。みんなつかれていたせいか、空港バスの中では寝ている者も少くはなかった。

ホノルル空港に到着後、みんな、めいめい免税店でお土産を買い、最後のハワイでの生活をENJOYしていた。

機内にのりこみ、いよいよハワイをたつ時がきた。みんな窓からハワイ本土の写真をとっていた。

私の記憶はここまでしかないが、友人に聞くとある者は機内での映画を楽しみ、またある者は「ホームステイ」での家族との生活の話に花を咲かせていたようだった。

成田空港に到着した時、自分の心に1つの実感があったのである。それは、「日本は実に狭いものである。」の一言であった。

あの小さなハワイ本土でさえ雄大に感じさせられるのに、日本はハワイより大きいのに狭く感じられる。日本はあまりにも密集しすぎているようである。



短かった4日間

森本 誠

8月27日、いよいよ最後の日となった。

長いようで短かった研修を終えて、日本へ向かった。この4日間を振り返ると、数々の思い出が心の中にひめられている。特に印象に残っているのは、2泊3日のホームステイだった。

自分にとって初めての海外旅行、またホームステイで、期待と不安で多少緊張気味だった。ホストファミリーが迎えに来てくださって、握手をか



わした時に、そこのお父さんがいれずみをしているのを見て、ますます緊張が高まった。夕食時に隣りに同じ学校の生徒がいたので、安心して家族と溶け込むことができた。

次の日から、ハナウマ・ベイやパールハーバーの見学、ショッピングなど、自分が思っていたより以上にきれいで、見る物すべてが新鮮に思えた。夜には隣りの家族が十時頃にやってきて、遅くまでゲームをして楽しみました。日本では考えられない事だと思ひ、また習慣や生活が違うのがよくわかった。これらのことは、一生僕の心に残ると思う。

そんなことを思いかえしている内に、日本に帰ってきた。



Next visit を夢見て

松田孝之

いろいろな思い出を胸にひめ、日本へと向かっています。4泊6日という短い期間の海外研修でしたが、とても充実した期間でした。

僕のお世話になったホストファミリーは、韓国人のお宅でしたので、日本語もかなり上手に話されました。特に、おばさんの話す日本語の一言一言を聞いていると、苦労されたのだろうなあと思いました。そして、おばさんに一つたづねました。

“Please tell me the best way to master English.” とたづねると、“You had better speak English always.” と答えられたので、ホームステイの間、英語を出来るだけ話しましたが、なんといっても期間があまりにも短か過ぎたので、英語を修得するどころか、ステイ先のホストファミリーに溶け込む事が精一杯だったのは、少し残念に思いました。とにかく、このホームステイで、自分がおとなし過ぎたように思います。またいつか、ホームステイをしてみたいと思いますが、今回の反省をもとに、もっと積極的に外国人と接して、そしてもっと長期間のホームステイをしたいと思っています。

ハワイの思い出を胸に日本へ

田淵義浩

日本への帰路の途中に考えたことなのですが、僕にとって、この4日間の最大の収穫は、目に映っている風景は同じだけど、頭の中を巡っている言語は全く違う。でも美しいとか楽しいとかいう感情は全く僕達と変わりのない異国人との接触。そして生まれて初めて踏む異国の土。初めて吸う異国の空気など、日本にいる時は気にも止めていなかったような行為までも新鮮に思える。まるで何も知らない赤ちゃんのような感受性を持ったことだと思っています。

少々時差のせいもありますが、「明日は何が待っているのかなあ」なんて思うと、まぶたの壁で外界との空間をさえぎるのが惜しくて眠れなかった夜。ホテルの窓から見た夜景。空や海の汚れることを知らないような透明感。というように、言語のわくで囲いをつけてしまうのになにか罪悪感を



感じてしまう美しさは、僕の心の中で、絶対に朽ちることのないアルバムに修められつづけるでしょう。2年後、大学に入ったら、必ずまたハワイに行くぞ。

6 日 目

上野雅弘

ホノルル空港で、成田行きの飛行機へ乗った時僕は、これでハワイとも最後なのかと思い、何か悲しくなりました。飛行機の中でまず思ったことは、3日間お世話を下さったホストファミリーの方々のことでした。英語をほとんど話せない僕達をあたたかく迎えて下さったし、ホストの子供達は、僕達を兄弟のように親しくしてくれました。僕には兄や弟がいなかったので、そのことが一番うれしかったです。そして、その子供達は僕達と別れる時、泣いていました。僕は、人が自分のために泣いてくれるということにたいへん感動させられました。もう一度、あの子達に会いたい。そしてもう一度、あの子達と野球がしたい。僕は、今でもそう思います。

この海外研修旅行で、僕はいろいろ学びました。こんな機会を僕に与えて下さった人達に心から感謝したいと思います。



ハワイを後にして

藤本清子

今回のハワイ研修は、私にとって初めての海外旅行だった。あつという間の5日間だった。私は帰りの飛行機の中で、だんだん遠のいて行く島を見ながら、ハワイであったいろいろなことを思い出した。ホームステイで英語が通じなかったり、ホストファミリーの人の言っていることがわからなくて困ったこと、子供のしつけのきびしいことや、男の人でも台所に立って料理の手伝いをするなどなどの日本との生活習慣の違いにおどろいたこと、すみきったきれいな海、ホテルの部屋から見た美しい夜景、どれも私にとってとてもいい思い出になった。

今度ハワイに行く時は、もっと上手に英語が話せるようになって、ハワイの人達ともっといろいろなことを話したいと思う。



出 会 い

西野陽子

ハワイの澄んだ空気にプルメリアの香りがいっぱいいただよっていました。そして私は、さまざまな人との出会いに胸をふくらませていました。しかし少しの不安もありました。

ホストファミリーの人が、私達にやさしくゆっくりとした英語で話しかけ、そのすぐ後に日本語で話しかけて下さった時、今まで少ししか開かれていなかった心の窓を大きく開くことができました。『言語・習慣などが違っていても基本的には同じ人間なんだ。』という事を身を持って体験できたと言っても過言ではありません。

ホームステイその他さまざまな体験をし、そして同じくらいの——いいえそれよりずっと多くの人々と出会うことができました。私にとって思い出の1ページだけではとどまらないでき事だったように思います。

出会い——それは偶然と偶然が重なりあったものであるけれど、私たちの積極的な働きかけで『大きな心の輪を広げることができる』と、私はこの研修でそんなことを感じました。



貴重なお土産

佐藤 久子

朝、目が覚める。なんだか妙に心残りが感じられる。今日は最終日。1日中移動だ。

また長い空の旅。いとも簡単に帰国手続きは終わった。現実にはひき戻された。

家に着いて、スーツケースを開けてお土産を取りだした。みんなに『自分のもんばかり。』と責められたが、みんなは気付いていない。私の一番大切なお土産に。それは、靴や鞆よりずっとずっと貴重なお土産。家庭（ホストファミリー）でうけた愛情だ。なによりすばらしかった。嬉しかった。感動した。etc……。どんな言葉をあげても伝えきれない。身をもって体験してきたものは恐らく一生心に刻まれるだろう。

最後になったが、こんな貴重な体験の場を与えてくださったロータリーのみなさん、顧問の先生方、そして私たちを心よく受け入れてくださったホストファミリーの方々感謝したいと思います。

4日間を振り返って

福田 琢也

生まれて初めての海外旅行も、日付変更線を通したの残り2日間となり、もう帰るだけとなった。朝、制服に着換え荷物の整理をしていると、昨日まで楽しく過ごして来たホームステイの事やその他色々な事が夢のように思われ、何か寂しく思われた。

機内で、この研修は一体何であったのだろうと考えた。おおまかに考えてみると、昨年より、より国際親善というものを深めた状態であった為、アメリカの家庭内の慣習・文化の違いを身をもってありありと感ずることができた。また、人間性の面でもアメリカ人と日本人の接触がどのようなものであるかなど、多種多様な体験をすることが出来た。

短かったが、この4日間で『国際理解』という言葉の深い意味を知ることができたように思われる。また日本人同士、男女共に仲良くなり、大阪第266地区のインターアクトクラブとして、今後いろいろとうまくやって行けそうだ。



思い出に残る この一冊



HAWAII



海外研修の

アルバム

出 発

8月23日(日)



▲ 大阪国際空港にて
結団式. 二宮先生のお話を聞く。



みんな やや 緊張ぎみ

いざ
ハワイへ

約9時間
の空の旅



早くハワイに
行きたいな！
(ピース)

ホノルル空港で
レイをうけて



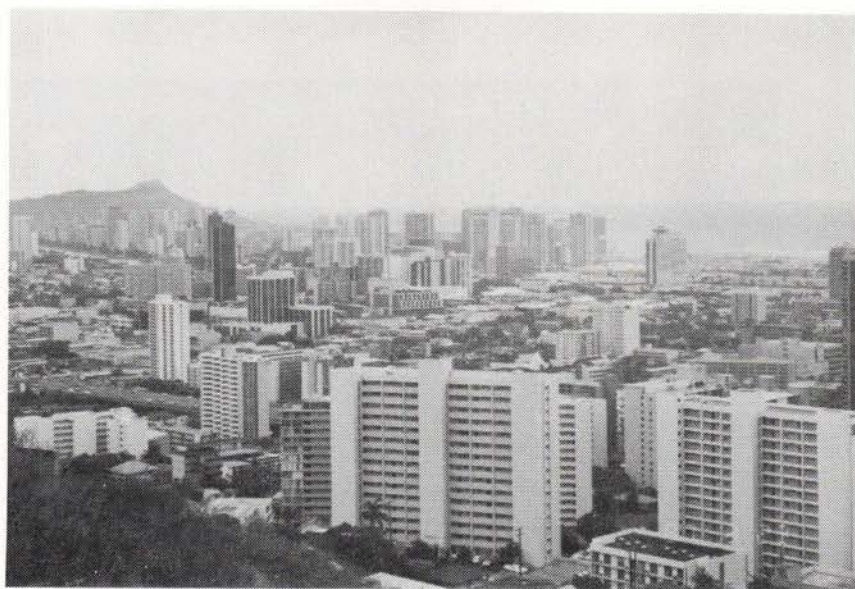


ヌアヌ・パリで

濃い霧のかかる
ヌアヌ・パリ



《パンチボールの丘より》



みんな真剣に
ホームステイの
注意事項に耳を傾ける！



ホームステイだ

ホスピタリティ・センターで
バーバラさんのお話を聞く



期待かな？
不安かな？

ホストファミリーの出迎え



さあ、ガンバルぞ。

フェアウェルパーティ 8月25日(火)



ホームステイ
無事終了!

おいしそうだね



ホストファミリー
と楽しい食事

こんなに
仲良く
なりました



ゆかたで
チーズ

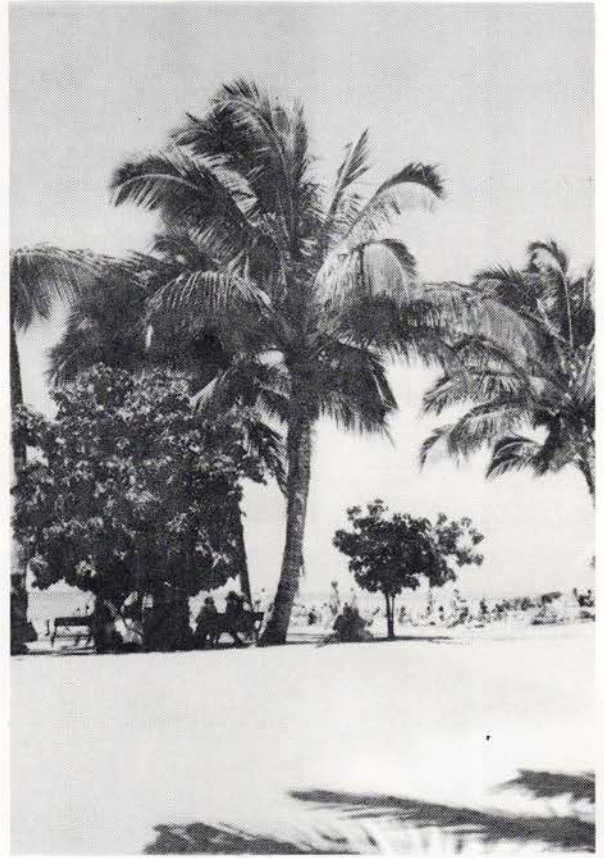
《みんなで河内音頭》

盆ダンスとか
いってハワイ
の人達も楽し
そう!



ハワイ

- 23日 ヌアヌ・パリ、パンチボール
観光
オリエンテーション
ホストファミリー出迎え
- 24日 ホームステイ
- 25日 ホームステイ
フェアウェルパーティ
- 26日 ショッピング
ポリネシア文化センター
見学
- 27日 帰国の途へ
- 28日 成田空港に着、大阪へ



青い空・青い海

強い日ざしが

まぶしいぜ!



それは
偉大な
カメハメハ
(イオニア宮殿)

反省会

8月26日(水)



神谷先生
ごくろうさま



ホームステイの思い出を語る



みんな活発
に自分達の
体験を
語りあう



ポリネシア

8月26日(水)PM

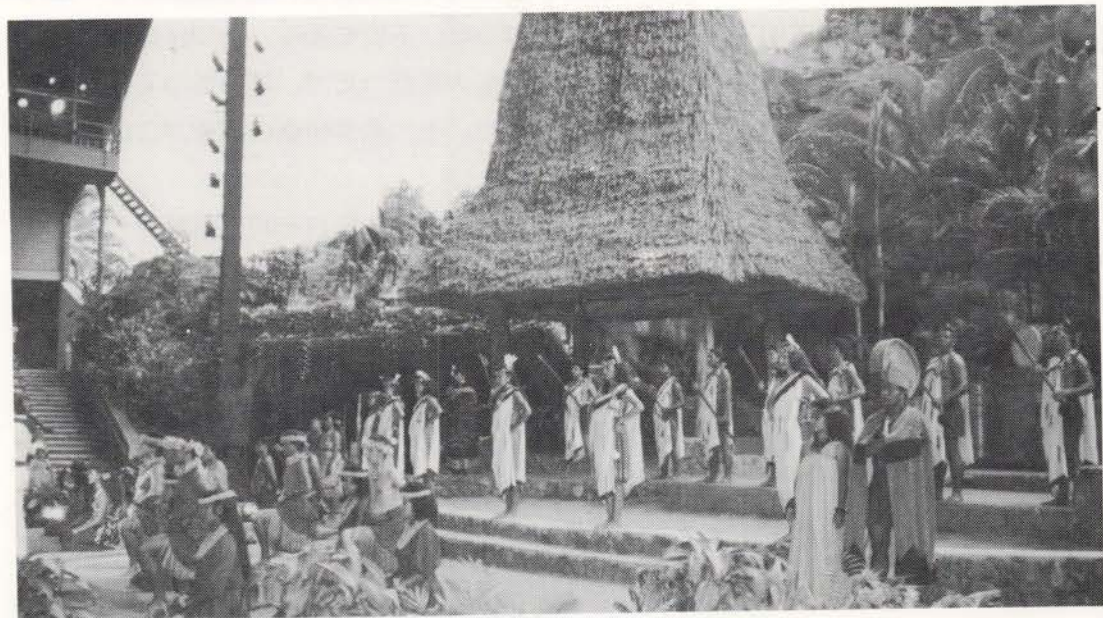
火を起こし、文化を
伝える若い現地人

人喰い人種に
おびえる！



ガイドさんの
説明に聞きいる

文化センター



すばらしいショーに感嘆！

ポリネシアの島々に伝わる

文化に触れることができた



闇に浮かぶ 炎のファンタジー

編 集 後 記

国際化が叫ばれる中でのハワイ海外研修。言葉だけではなく、他の国の文化・生活をインターアクター達に肌で感じてもらいたかった。不安も多く、ハワイのホピスタリティーセンターとの手紙のやりとり等、準備も大変だったが、思いきって2泊3日のホームステイを中心にこの計画を進め実行した。その海外研修の成果がこの報告書の中によくあらわれていると思う。

アクター1人1人が実際に身をもって体験したことを、それぞれの言葉でうまく表現していると思う。彼らの感想文を読みながら校正していく中で、つくづく意義深い研修旅行ができた満足している。

このような立派な報告書が発行できることになったのも、関係各学校、顧問の先生、ロータリークラブの方々、そして印刷部門で多大のご奉仕下さったライオン印刷㈱の御協力のおかげと感謝しております。

R I 266 地区

I・A・C 顧問代表 門 田 三生夫

海外研修旅行報告 (ハ ワ イ)

発 行 昭和62年12月20日
発 行 元 266 地区 インターアクトクラブ
(清 風 学 園 内)
責 任 者 門 田 三 生 夫 (清風学園 I A C 顧問)
神 谷 佳 郎 (清風学園 I A C 顧問)

印刷・製本 ライオン印刷㈱ ☎ 661-4326(代)

